



サントリー文化財団 2025年度 研究助成「学問の未来を拓く」決定

公益財団法人サントリー文化財団（理事長 烏井信吾）は、2025年度研究助成「学問の未来を拓く」として、応募総数553件のうち、30件を助成対象に決定しました。助成総額は3,000万円です。

本助成は、人文学、社会科学の分野において、従来の「研究」や「学問」を問い直す知的冒険に満ちたグループ研究に対して助成を行うものです。さらに、異分野の研究者・専門家間の交流および情報共有を促進することを目的として、助成対象者による中間報告会を開催いたします。報告会では、各研究グループが研究の進捗状況や研究内容の魅力について発表を行います。

昨今、研究の世界では短期的な成果が求められる傾向があり、多分野を横断する研究や普遍的なテーマへの取り組み、新しい課題や手法へのチャレンジなど、冒険的な研究を行うことが困難になっているといわれています。このような時代だからこそ、当財団ではこれからも大きな志をもった研究活動を応援していきます。

*選考委員

- 荒木 浩氏 (国際日本文化研究センター名誉教授)
遠藤 乾氏 (東京大学教授)
隱岐 さや香氏 (東京大学教授)
金水 敏氏 (放送大学大阪学習センター所長、特任教授)
酒井 隆史氏 (大阪公立大学教授)
山室 信一氏 (京都大学名誉教授)

* サントリー文化財団研究助成（公募）について

当財団は、1979年の設立以来、人文学、社会科学の分野において、広く社会と文化を考えるための国際的、学際的な研究活動に対し助成を行ってきました。

現在は、グループ研究助成「学問の未来を拓く」、個人研究助成「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」の2つのプログラムを設けています。研究の成果は論文発表・図書出版などで広く内外に発表されています。

* この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人サントリー文化財団

研究助成「学問の未来を拓く」係

T E L 06-6342-6221 F A X 06-6342-6220

ホームページ <https://www.suntory.co.jp/sfnd/>

2025年度研究助成「学問の未来を拓く」助成先一覧

No	研究テーマ	代表者
1	日本におけるクリスマスオーナメント誕生の背景と3DCADデータによる復元の研究	流通科学大学人間社会学部 非常勤講師 相澤 孝司 あいざわ たかし
2	日本におけるバーレスク通史の構築:上演空間と踊り手／観客の力学の変容	東京科学大学大学院環境・社会理工学院 博士後期課程 泉 沙織 いずみ さおり
3	共生社会の心のインフラを問う — 在日ベトナム人の視点にみる認知的不協和と価値観	国際医療福祉大学基礎医学研究センター 教授 上里 彰仁 うえざと あきひと
4	能舞台をサウンドスケープ（音風景）の視点からひも解く	神奈川工科大学情報学部 准教授 上田 麻理 うえだ まり
5	「旧東独」の35年間を「小さな物語」から捉え直す — メディア・まちづくり・学術・アート	福山市立大学都市経営学部 准教授 大谷 悠 おおたに ゆう
6	近現代日本のポップカルチャーにおけるヴィラン表象についての研究	成蹊大学文学部 教授 大橋 崇行 おおはし たかゆき
7	歌舞伎町に「棲む」若年女性はどこから来てどこに行くのか — 「流入」→「居留」→「退出」の構造と背景	昭和女子大学人間社会学部 教授 奥貫 妃文 おくぬき ひふみ
8	20世紀日本の「開拓」をめぐる文化史的研究 — 思想・表象・記憶の継承の検討を通して	日本学術振興会特別研究員PD (受入機関: 山形大学人文社会科学部) 奥村 華子 おくむら かなこ
9	アイヌの声を届ける法学を目指して — 司法・立法・法学に潜む植民地主義の批判的考察	中央大学大学院法務研究科 教授 小坂田 裕子 おさかだ ゆうこ
10	女性画家アルテミジアの見た世界:アニメーション制作を通じた西洋近世美術の再構築	千葉大学大学院人文科学研究院 准教授 川合 真木子 かわい まきこ
11	動物音声研究の黎明期の音古画像から失われた動物音声を蘇生し音遺産を未来へ継承する試み	東京大学大学院総合文化研究科 准教授 香田 啓貴 こうだ ひろき

12	人類史におけるモニュメント・都市・貨幣の脱権力化:国家に抗する社会をめぐる人文科学知の総合に向けて	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科 特任准教授 こなすかわ あゆむ 小茄子川 歩
13	人質の提供から大使の提供へ —— 近代在外公館制度の起源	北海道大学大学院公共政策学連携研究部 准教授 こはま しょうこ 小浜 祥子
14	戦争伝承の集合的記憶形成における言語・スタンス・認知:次世代との共感性構築にむけて(国際共同研究)	同志社大学グローバル地域文化学部 教授 さきた ともこ 崎田 智子
15	日本語で何をどう話せば面白くなるのか? : 言語文化・話し方・キャラを踏まえた総合的な「面白い話」研究	京都大学大学院文学研究科 教授 さだのぶ としゆき 定延 利之
16	退屈の機能的意義を問い合わせる	国立精神・神経医療研究センター神経研究所 外来研究員 しながわ かずし 品川 和志
17	ジャポニスムと中東:エジプト近代宮殿所蔵の幕末明治遣欧使節団贈答品・日本品の悉皆調査	イスタンブル工科大学建築学部 准教授補 ジラルデッリ あおき みゆき 青木 美由紀
18	「食」と「教育」を基軸としたコミュニティ協同組合論の構築:世代と国境を越えた日韓共同研究による試み	関西大学商学部 教授 すぎもと なかし 杉本 貴志
19	芸能史叙述における「性」と「差別」—配慮・検閲・自己規制—	大阪大学大学院人文学研究科 准教授 すずき せいこ 鈴木 聖子
20	解釈労働をめぐる権力関係についてのフェミニスト人類学的研究	和光大学現代人間学部 講師 たがわ ゆめの 田川 夢乃
21	中世城郭遺構に集中分布する薬用植物テンナンショウの実態と薬種流通	近畿大学農学部 教授 たねさか えいじ 種坂 英次
22	制度の外側から秩序を再構築する —— 精神性・宗教・アジア主義の交差点を掘り起こす	神戸女子大学文学部 准教授 つあん ちえんふえい 莊 千慧
23	日韓併合期における大衆文化としての朝鮮歌謡の形成と内地の受容について	佐賀女子短期大学地域みらい学科 教授 ながさわ まさはる 長澤 雅春

24	養育里親と里子の家族形成プロセスに関する質的研究 複線径路等至性アプローチによる分析	東京大学大学院医学系研究科 修士課程 新居田 佳祐 にいだ けいすけ
25	東南アジアの移民労働力はなぜ枯渇しないのか：STAIR STEP MIGRATION の実証的研究	東海大学文理融合学部 教授 深川 博史 ふかがわ ひろし
26	能楽の時間進行・相互行為を可視化・立体化する	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 教授 藤田 隆則 ふじた たかのり
27	グローバルな経済的正義とグローバルヘルス：社会的公共財（コモンズ）概念に根差した学際的研究	国立健康危機管理研究機構国際医療協力局 人材開発部長 村上 仁 むらかみ ひとし
28	アジアのアール・ブリュットに対する国際比較研究：人類の財産として共有するために	国際日本文化研究センター研究部 機関研究員 森岡 優紀 もりおか ゆうき
29	中国農村部の生きた民間信仰の継承と再構築：巫女・道士・占い師に着目して	龍谷大学社会学部 専任講師 閻 美芳 やん めいふあん
30	国際法体系の基底論理の再検討	東京経済大学現代法学部 准教授 若狭 彰室 わかさ あむろ

(敬称略、肩書きは申請当時、氏名 50 音順)

以上